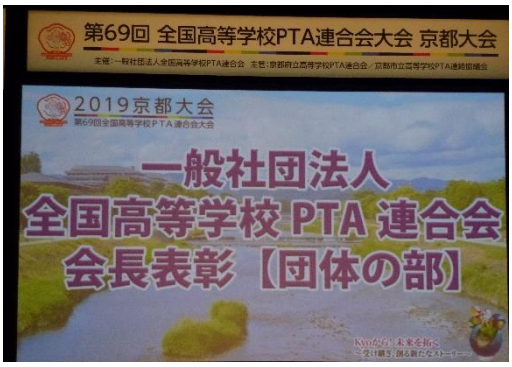
第 69 回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会　京都大会に参加して

令和元年８月２２日２３日と二日間にわたり、第６９回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会　京都大会が、ロームシアター京都・京都市勧業館みやこめっせの２会場で開催されました。

遠方にもかかわらず、多くのＰＴＡ会員様、学校関係者の皆様にご参加いただけましたことお礼申し上げます。

さて、今回の京都大会は「京の大学訪問・企業訪問・文化財訪問」の３コースを午前中に体験し、午後から開会式といった京ならではの開催方法で幕を開けました。



開会式では文部科学大臣表彰を受賞された高知県立中芸高等学校昼間部ＰＴＡ様、全国大会会長個人表彰を受賞された高知県立高知追手前高校　時久政和様、同じく受賞されました高知県立安芸高等学校　安岡伸夫様、全国大会会長団体表彰を受賞されました、高知県立中村高等学校ＰＴＡ様、同じく受賞されました高知県立高知南高等学校ＰＴＡ様、この度は本当におめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。

今年度受賞された皆様の活動をお聞きすると、学校、生徒、ＰＴＡの連携のみならず地域との協働等、学校がその地域における必要性や、学校へ地域の方々から愛情を注いでいただける活動や取り組みを重ねられたことのように思います。

少子化が進む中、学校の存続を含む社会環境の変化が目まぐるしい中、本当に素晴らしい活動を日々重ねていただき、他県の受賞者と比べても当然に値するものだと強く感じております。

表彰式の後の分科会は第６分科会まで分かれていましたが、私は第１分科会に参加し京都大学名誉教授である、永田　和宏先生の基調講演を拝聴しました。

歌人でもある先生の話はユーモアにあふれた内容でした。

まず、大学における研究については、「答えが１つである問題は社会に存在しない」「知識が学問につながるためには、驚きと感動が必要」「当たり前を問い直すことの難しさと大切さ」という言葉が記憶に残りました。

そこに歌人、奥村晃作氏の「次々に　走り過ゆく自動車の　運転する人　みな前を向く」「信号の　赤に対して自動車は　次々と止まる　前から順に」という日常ではごく普通の情景の二句をあげ、何気ない当たり前のことに考えを抱く大切さも必要ではないかということを伝えられていました。

「才能・能力とは何か」という題では「正しく答えられることより、正しく問えること」「皆が右を向いていたら、一度は左を向いてみる」「安易に答えを求めない、与えない」ということについて話され、そのような思考により、自分を知る事ができ、風通しのいい思考が生まれ、その積み重ねにより自己の可能性への信頼と確信が持て、そのためには挑戦と挫折を積み重ねていく事の重要性を話されました。

私が一番強く感じたのは、先生が「問いを問いとして質問できる学生が少なくなっている」という言葉でした。

現代社会はあまり本を読まなくなり、思考力はあるものの質問の際に文章を整理して質問ができなくなっている事が本当に危ないと感じられているようでした。

スマートフォンなどの普及で、気になる事がその場で解決できる世の中となり、単語を入れれば必要な答えが掌にある事で探求心が減少しているともおっしゃっていました。

社会環境の変化が教育や研究の分野にも大きな影響を与えている危険性を強く感じる講演で、教育現場の難しさを保護者としても受け止め、子供たちとの家庭での関わり方などで何か変えていかなければならない状況であること、そのためには学校との連携を強め現状を知り、子供たちのための協働が求められているのではないかと思いました。

そのためにもＰＴＡの価値観は今後益々重要な位置を占めていく事と思います。

今後におきましても、皆様の宝物であるお子様の輝かしい日々にそして大きな翼を持ち未来にしっかりと羽ばたいていけるよう、小さな積み重ねであるかもしれませんが、積極的な活動をよろしくお願いいたします。

高知県高等学校ＰＴＡ連合会　会長　小串和久